

日本



米国



ユーロ圏



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

債券・為替ウィークリーレポート (先進国・新興国)



ブラジル



南アフリカ



インドネシア



インド
















メキシコ



トルコ







中国

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/2 （11/25との比較）	12/2 （11/25との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
日本 	A+	0.04% （▲0.00）		+0.9% 2016年3Q	-	設備投資が前年比減少となる中、企業収益は改善した。OPEC（石油輸出国機構）での減産合意や、米国次期政権の政策動向といった海外の動向が注目される中、国債利回りは週を通じては横ばいで推移。	景気ウォッチャー調査などの発表が予定されるが、欧州の政治動向や米欧の金融政策をめぐる動きなども注目される。国債入札の動向と日銀の長短金利操作策の効果が綱引きの要因となる中、レンジ推移が想定される。
	A1	 金利横ばい		 景気安定	-		
米国 	AA+	2.38% （+0.03）	113.51円 （+0.26%）	+1.6% 2016年3Q	0.50%	ISM製造業景況指数や雇用統計で良好な内容が示され、12月の利上げの可能性が高まる状況となった。OPEC（石油輸出国機構）で原油減産が合意される中、国債利回りは上昇し、米ドルは対円で上昇。	ISM非製造業景況指数や貿易収支などの発表が予定されている。引き続き、次期政権の政策期待の持続性が注目される中、イタリアなど欧州の政治動向と米欧の金融政策をめぐる動きからも目が離せない状況とみられる。
	Aaa	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
ユーロ圏 （*） 	AAA	0.28% （+0.04）	121.08円 （+1.05%）	+1.6% 2016年3Q	0.00%	ユーロ圏のCPIが緩やかな上昇基調を示す中、イタリアなど各国の政治動向が注目される。OPEC（石油輸出国機構）の原油減産合意により原油価格が上昇する中、国債利回りが上昇し、ユーロは対円で上昇。	ECB（欧州中央銀行）は資産買い入れ策の延長を公表するとみられ、ECB総裁の会見などが注目される。イタリアの憲法改正の国民投票を控え、各国の政治状況が懸念視される環境下、国債利回りは上昇しにくい展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示（*ユーロ圏についてはドイツの同格付を表示）。※2 10年国債利回りを表示（*ユーロ圏はドイツ国債利回り）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、米国：フェデラルファンド金利、ユーロ：主要リファイナンス金利を表示、日本は金融政策の目標が無担保コール翌日物からマネタリーベースに変更されたため非表示。





※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/2 （11/25との比較）	12/2 （11/25との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.62% （+0.06）	85.41円 （+2.02%）	+1.3% 2016年3Q	0.50%	雇用統計とGDP（国内総生産）はともに市場予想を上回る良好な内容となった。OPEC（石油輸出国機構）での原油減産合意により原油価格が上昇する中、国債利回りは上昇し、カナダドルは対円で上昇。	足元の堅調な経済指標もあり、中銀は政策金利を据え置くと予想。国際商品貿易と住宅着工件数などの経済指標の発表が予定され、景気回復度合いを探る環境だが、米欧の政治・金融政策の動向も注目される。
	Aaa	➡ 金利横ばい	➡	➡ 景気停滞	⬇️ 利下げ局面		
オーストラリア 	AAA	2.86% （+0.10）	84.64円 （+0.42%）	+3.3% 2016年2Q	1.50%	設備投資が予想を下回る一方で、小売売上高は市場予想を上回る内容となった。米国の金融・財政政策の動向や中国経済の先行きなどが注目される中、国債利回りは上昇。豪ドルは対円で上昇。	中銀は引き続き景気回復度合いを探る状況とみられ、政策金利を据え置くと予想。GDP（国内総生産）や貿易収支などの予定があり、米欧・中国などの政治経済の動向をにらんで一進一退の市場動向を想定。
	Aaa	➡ 金利横ばい	➡	➡ 景気安定	⬇️ 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	3.26% （+0.07）	81.08円 （+1.58%）	+3.6% 2016年2Q	1.75%	交易条件指数は横ばいと市場予想に反して前期比低下。企業景況感指数は小幅低下も高水準を維持した。全般的な円安基調が継続する中、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	中銀の金融安定報告で、住宅市場の過熱と酪農家の債務増加がリスク要因であると指摘。住宅市場への配慮が必要であるものの、交易条件指数の不振やインフレ率の低迷を背景に、追加金融緩和観測は払拭されないとみられる。
	Aaa	➡ 金利横ばい	➡	➡ 景気安定	⬇️ 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.74% （+0.11）	13.43円 （+1.80%）	-0.9% 2016年3Q	0.50%	製造業PMIが50を割り込む水準に急激に低下。2017年度予算をめくり連立与党内での意見相違が表面化した。妥協案合意により政権交代の危機は回避された模様。ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。	鉱工業生産やインフレ率などの発表を予定。中銀による企業調査で2016年半ば以降の回復基調が維持されているかが注目される。OPEC（石油輸出国機構）減産合意後の原油価格上昇により通貨は下支えされるとみられる。
	Aaa	➡ 金利横ばい	➡	➡ 景気安定	➡ 据え置き局面		

（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。




※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国(地域)	格付 (※1)	債券(※2)	為替(対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/2 (11/25との比較)	12/2 (11/25との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
ブラジル 	BB	12.32% (+0.27)	32.65円 (▲1.57%)	-2.9% 2016年3Q	13.75%	金融政策委員会では、政策金利が市場予想通り引き下げられ13.75%に決定。汚職防止法をめぐる議会と司法との関係悪化懸念や米国債利回りの上昇等を背景に、国債利回りは上昇。レアルは対米ドル、対円ともに下落。	中銀は今後の物価の状況や財政健全化の進捗をみながら利下げを進めるとしており、債券・為替市場はインフレ指標や議会運営に左右される展開が予想される。
	Ba2	金利横ばい	金利横ばい	景気回復	利下げ局面		
南アフリカ 	BBB	8.45% (▲0.07)	8.22円 (+2.47%)	+0.6% 2016年2Q	7.00%	ズマ大統領の不信任決議は否決。S&Pによるレビューは自国通貨建て債務が格下げされたものの、外貨建て債務は据え置かれた。投資適格格付けを維持し、国債利回りは低下。ランドは対米ドル、対円ともに上昇。	主要格付機関によるレビューを終え、外貨建て債務の投資適格格付けが維持されたことで同国資産は一時的に上昇するとみられる。しかし政府による成長見通しの下方修正や政治リスクの残存など、上値の重い展開を予想。
	Baa2	金利横ばい	金利低下	景気鈍化	利上げ局面		
インドネシア 	BB+	7.91% (▲0.42)	0.84円 (+0.36%)	+5.0% 2016年3Q	4.75%	インフレ率は食品価格の上昇を受けて伸び率加速。一方、コアインフレ率は前月からやや鈍化。製造業PMIは前月から改善。割安感から来る需要もあり、国債利回りは低下。ルピアは対米ドル、対円ともに上昇。	消費者信頼感指数や外貨準備の発表を予定。引き続きグローバル市場の影響を受けやすい公算とみられ、イタリア国民投票の結果発表やFOMC(米連邦公開市場委員会)を控える中、通貨・債券ともに上値の重い展開を予想。
	Baa3	金利上昇	金利横ばい	景気安定	利下げ局面		
インド 	BBB-	6.22% (+0.04)	1.67円 (+0.91%)	+7.3% 2016年3Q	6.25%	製造業購買担当者指数は、分かれ目の50を上回ったものの前月より低下。高額紙幣廃止による需要低下が影響したとみられる。米大統領選の警戒感が一服し、インドルピーは対ドル、対円ともに上昇。国債利回りは上昇。	GST(物品・サービス税)に関する審議会は中央・地方政府間で合意できず。同法案は国会に提出される予定だが、開会期間は16日までと切迫しつつある状態。また金融政策決定会合の実施を予定。
	Baa3	金利低下	金利横ばい	景気回復	利下げ局面		

(出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示(ブラジル：4年、南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年)。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高(円安)を上向き、現地通貨安(円高)を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。※政策金利については、ブラジル：Selicレート、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレボ金利、インド：レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

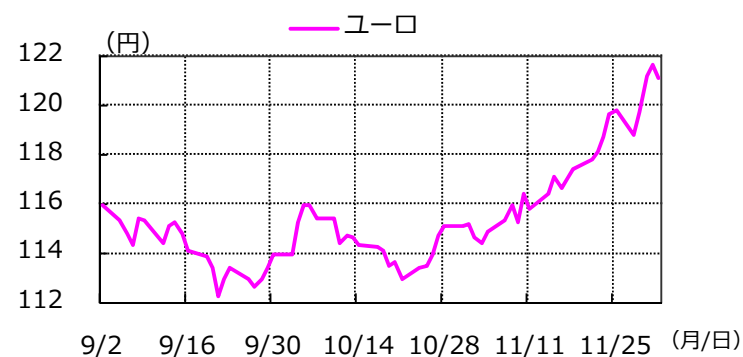
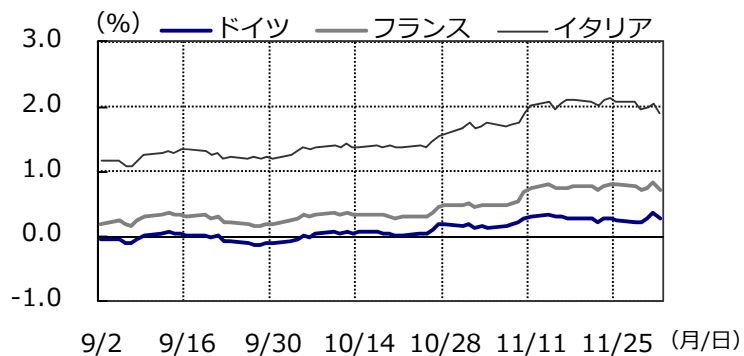
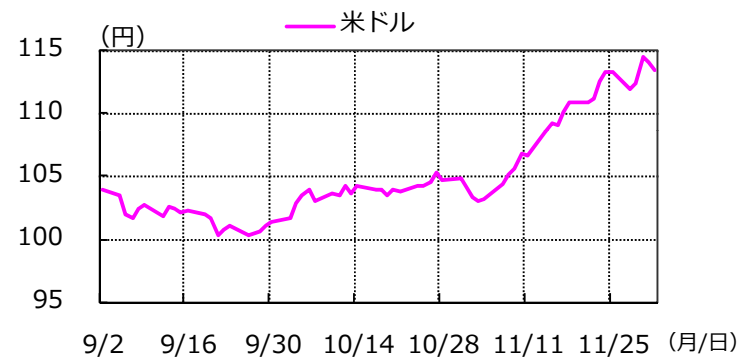
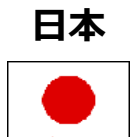
国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/2 （11/25との比較）	12/2 （11/25との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
メキシコ 	A	6.95% （▲0.12）	5.50円 （+0.43%）	+2.0% 2016年3Q	5.25%	製造業PMIは前月より低下。中銀は金融政策決定会合の議事録を公表し、更なるインフレへの注視を言及。米大統領選以降の市場の流れが落ち着き、国債利回りは低下。ペソは対米ドル、対円ともに上昇。	インフレ統計などの発表を予定。次回の金融政策決定会合で追加利上げが想定されるため、中銀の対応が注目される。なお、中銀総裁が国際決済銀行の総支配人に決定。来年7月の退任も決まり、後任人事も注目される。
	A3	→ 金利横ばい	→	↑ 景気回復	↑ 利上げ局面		
トルコ 	BB+	11.29% （+0.06）	31.84円 （▲3.28%）	+3.1% 2016年2Q	8.00%	近日、与党が大統領の権限強化案を盛り込んだ憲法改正案を提出するとの報道や米国債利回りの上昇等から、国債利回りは小幅上昇。リラは大統領の利下げを求める発言などから対米ドル、対円ともに下落。	エルドアン大統領が非常事態宣言の再延長を示唆していることや、米ドル高が経常赤字に伴う外貨の借入れコストを押し上げることが悪材料視されやすく、債券・為替市場ともに弱含みで推移しやすい展開を予想。
	Ba1	↑ 金利上昇	↓	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
中国 	AA-	3.50% （+0.12）	16.50円 （+0.94%）	+6.7% 2016年3Q	4.35%	統計局発表分の製造業PMIは前月から改善。一方、民間発表分は前月から低下するも、5ヶ月連続で50超の水準を維持。香港市場の人民元は対米ドル、対円ともに上昇。香港市場の国債利回りも上昇。	貿易統計やインフレ統計の発表を予定。前回、大幅に上昇したPPIの動きに注目。また、中銀が資本流出を抑制するため、海外向け元建て融資規制を強化したことを受け、急騰した香港市場の人民元調達コストにも注目。
	Aa3	↑ 金利上昇	→	↓ 景気鈍化	↓ 利下げ局面		

（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示（メキシコ：5年、トルコ：5年、中国（香港市場における中国国債の利回り）：10年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値（中国の為替は、香港市場における人民元の為替レート）を表示。※政策金利については、メキシコ：翌日物金利、トルコ：1週間物レポレート、中国：1年物貸出金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/2～2016/12/2



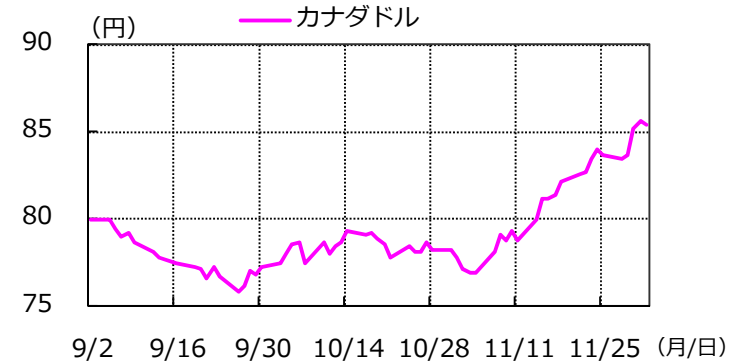
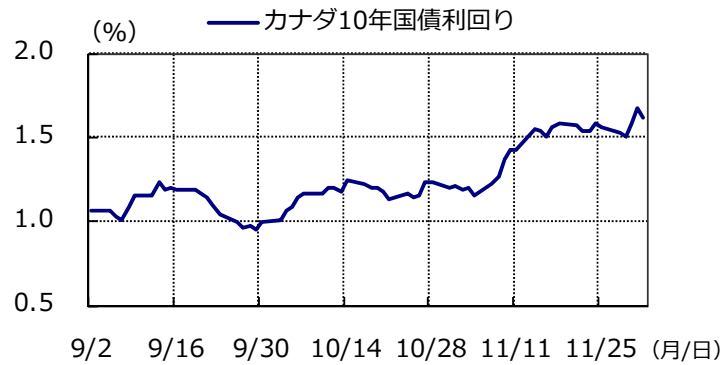
※10年国債利回りを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

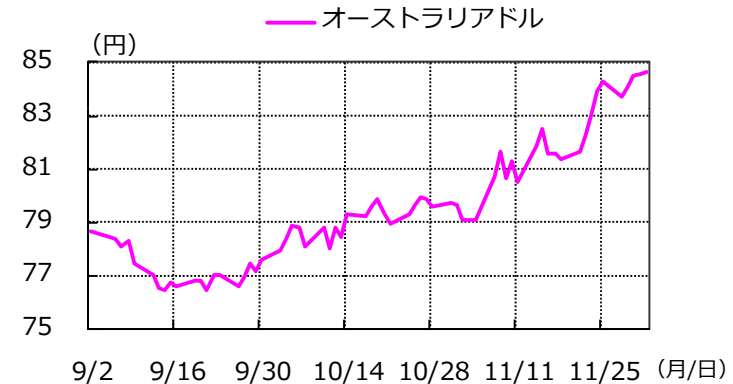
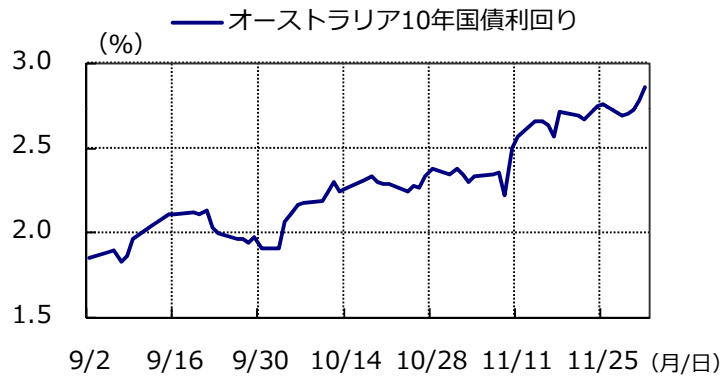
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/2～2016/12/2

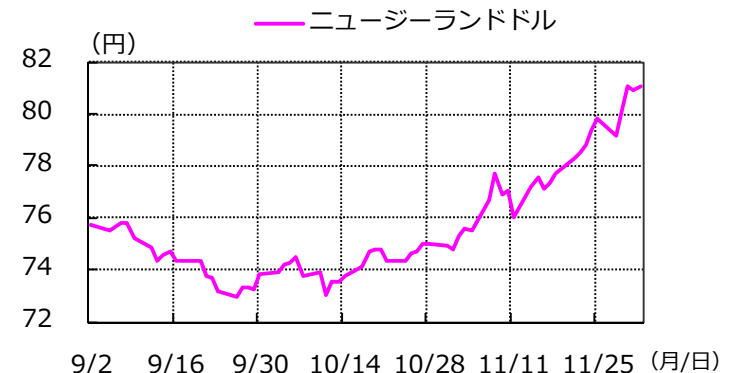
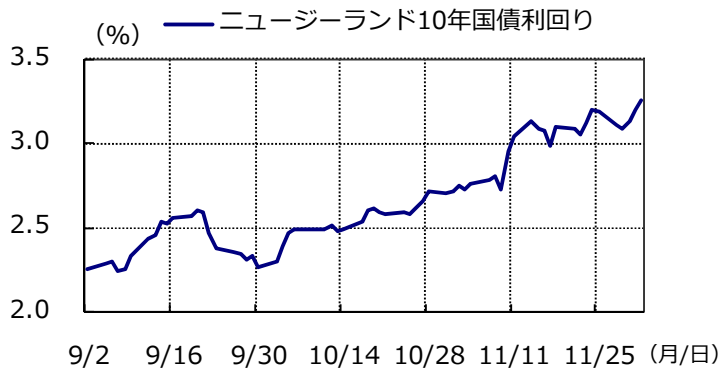
カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

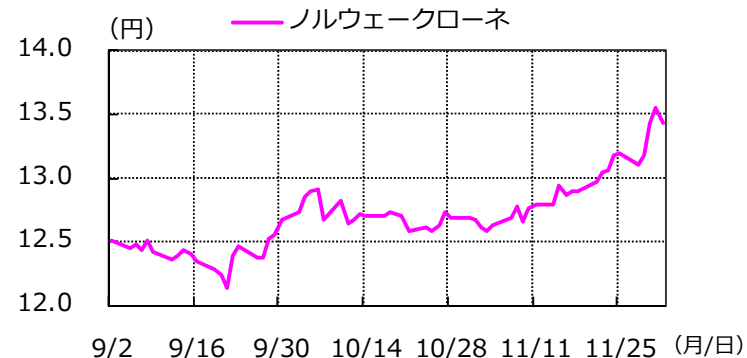


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

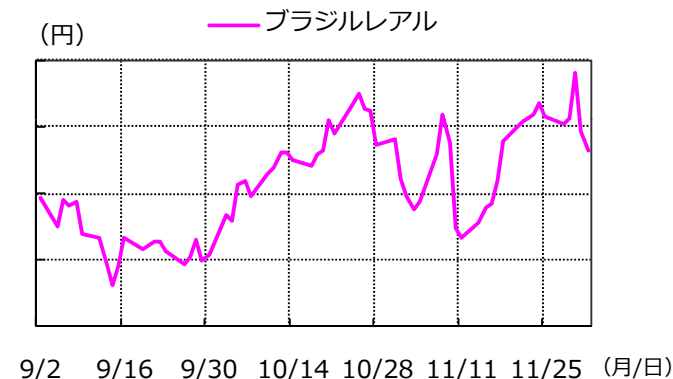
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/2～2016/12/2

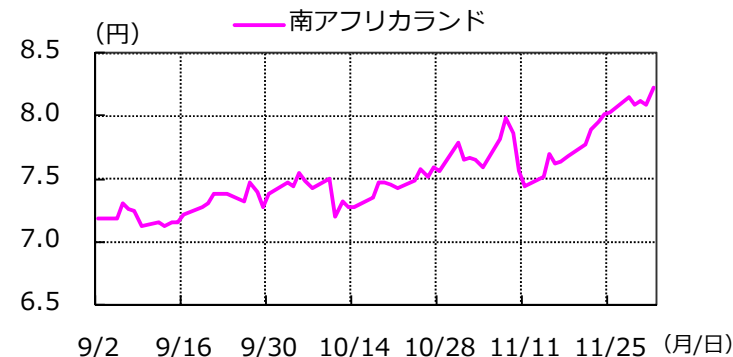
ノルウェー



ブラジル



南アフリカ

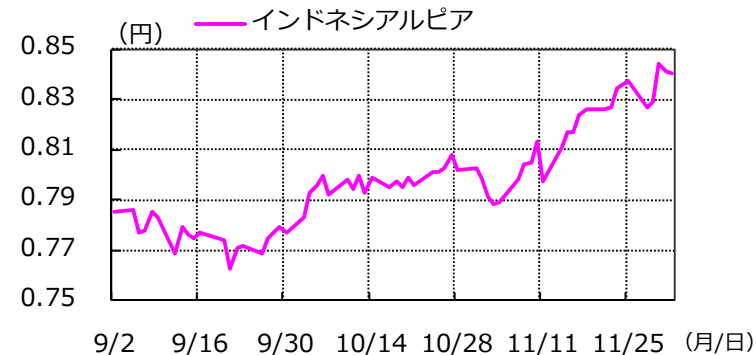
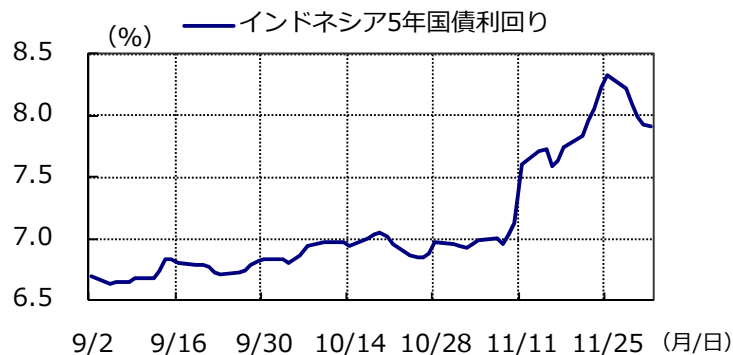


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。(出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

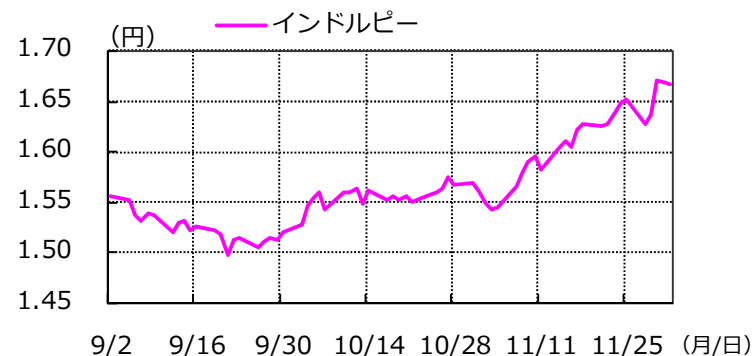
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/2～2016/12/2

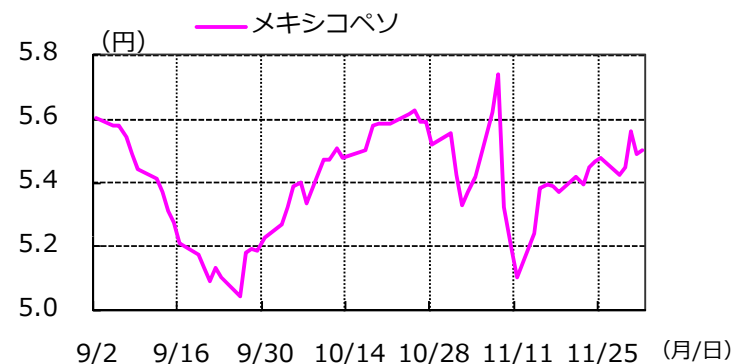
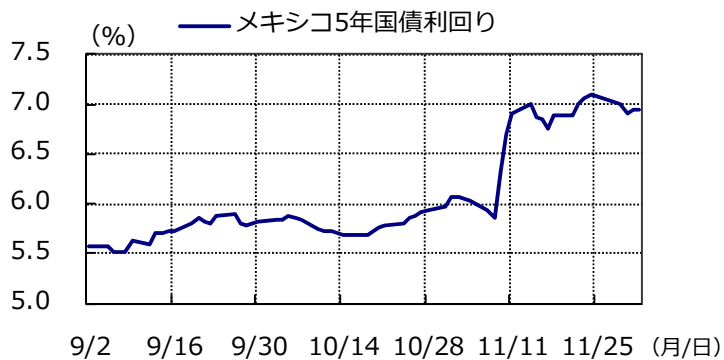
インドネシア



インド



メキシコ

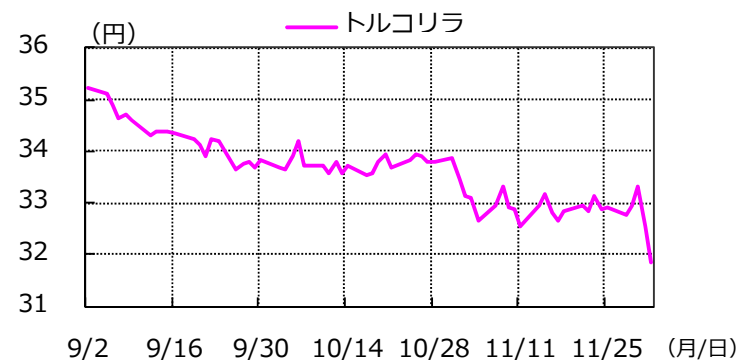


※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。 (出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

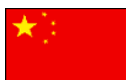
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/2～2016/12/2

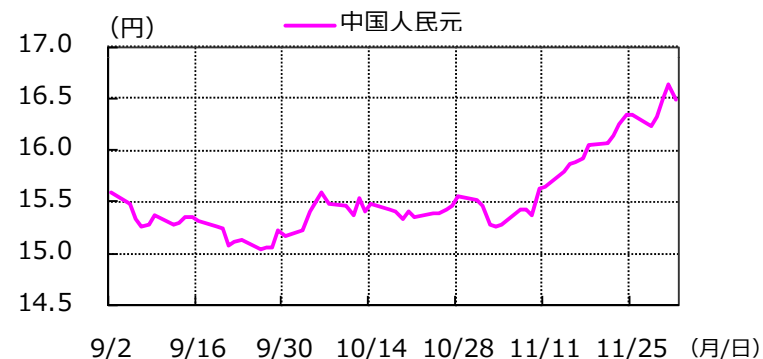
トルコ



中国



※香港市場における中国国債の利回りを表示。



※香港市場における人民幣の為替レートを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

信託財産留保額：上限0.5%

公社債投信およびグリーン公社債投信の換金時手数料：取得年月日により、1万口につき上限108円（税込）

その他の投資信託の換金時手数料：ありません

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※ 上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

■ その他費用・手数料

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。